

広報

のあさひ

No. 349

'85
12/15



焼物づくりに挑戦(いもがわ少年教室)

利雪、和雪をみんなの手で

雪と寒さを克服する町づくりを

今年もまた白い季節がやってきました。いよいよ本格的な冬の到来です。

私たちはこれまで「雪さえ降らなければ暮らしやすいのに」とほやき、雪を特別やつかいなものとして考えてきました。そのために冬になると町全体が暗い雰囲気になっていました。しかし最近では、いろいろな工夫で雪や寒さを克服し、冬でも快適な生活をしようとする試みが次々となされています。

さらにこれからは、雪を逆手にとつて、雪国の特権を生かす発想が求められています。

すすむ克雪対策

町の克雪対策の重点は、道路の除雪と排雪です。これまで車社会が急激にすすむなかで、道路の除雪にとくに力を入れてきました。

町道の除雪態勢の推移を見てみると、十年前の昭和五十年には除雪機が四台だけで、除雪される距離も七十㌔程度でした。しかし現在では、ロータリー車やタイヤドーザーなどを含め

十台に増え、除雪延長も一二〇・三㌔に伸びています。

また、除雪機オペレーターを十三人に充実させ、町道の除雪に精力的に取り組んでいます。

一方、国道や県道については、それぞれ全面的に業者委託をして、冬の交通確保に当たっています。

排雪については、とくに

住宅密集地や小路などは、一冬に数回必要になるわけですが、この際、除雪機は町で全額を持ち、排雪運搬のためのダンブ借上料は地元負担という形で協力をお願いしています。

さらに、町では毎年「除雪に対するお願い」のチラシを全戸配布して、円滑な除排雪をすすめるための協力を呼びかけています。

さて、克雪対策の新しい試みとして、昨年初めて宮宿中央通りに消雪道路が実

消雪道路のマナーきちんと

本町 長岡 定一郎さん



消雪道路が出来てほんとうによかったと思います。これまででは車道優先ということで除雪する際に雪が歩道まで押されていたわけですが、この問題も解消され、道路も広くなり、沿道の人とはもとより歩行者の皆さんや買い物に来られるかたにも、たいへん喜ばれています。

維持、管理については、

地元任せられており、昨冬完成したのは本町の部分だけでしたので、「本町消雪道路の会」をつくって管理に当たっています。昨冬は自分の屋敷や歩道の雪を道路に出す人が少し見られました。道路に出すとシャーパート状になり、車にはねられ迷惑がかかりますので、今年はしっかりと申し合わせをしていきます。

運転者の皆さんへですが、消雪道路は寒い時水蒸気で霧がかかったようになり危険です。歩道に水をはねないためにも、ぜひ徐行をお願いします。



宮宿中央通りに消雪道路が整備され、昨冬は雪なしで快適だった

現しました。もう一つのユニークな試みとして、松程に消融雪溝が整備されました。

冬の快適な環境づくりに次々と新しい試みがなされ

消雪道路四六〇メートルに

ていますが、これからは冬に強い住宅づくりも含め、地域に合った克雪方法をみんな考えていかなければなりません。

れており、井戸の数は昨年一カ所、今年二カ所、さらに来年の事業に向けて一、二カ所掘削する予定です。

さて、昨冬初めて消雪道路が使用されたわけですが、商店街のかたや買い物されるかたにも、たいへん評判がよいようです。

一つは、本町通りはこれまで交通の混雑がもっとも激しかったために、雪なし

の道路で冬期間の混雑がある程度解消されたこと。二つ目には、除雪の場合は雪が歩道にあふれ、歩行者も困っていたが、それが解決したことなど、消雪道路が整備されたことによるメリットは、たくさんあげられます。

しかし、車で通行する場合、スピードを出しすぎると道路にたまった水が歩道へ飛んでしまう、という面もあります。

今後、残りの部分も逐次整備されていく予定です。沿線で管理されるかたも、通行する人も、よりよい消雪道路使用のために協力していく必要があります。

松程の消融雪溝も延長

克雪のもう一つのユニークな試みとして、昨年、松程に消融雪溝が整備されました。

これも県の事業として行われたものですが、集落内の県道に沿って流れる用水路を活用して、消融雪溝に

つくりかえたものです。昨年、三七五メートル（工事費一、四二三万円）が整備され、今年残りの分六〇メートル（工事費九六万円）が完成しました。

これは、U字溝に消網板や所々に止水板を備えつけ

今年、昨年の続き一六〇メートルの工事が予定されていますが、追加工事としてさらに一六〇メートルが加わり、三二〇メートル延びたことになりました。

工事費は、昨年度が二、三二〇万円、今年度九、六〇〇万円が県費で投じられています。

消雪水をくみ上げる井戸は深さ一五〇メートルまで掘削さ

るだけで、あとは水のエネルギーで消雪できるシステムになっており、投雪するときに人力を要しますが、極めて経済的な消融雪の方法といえます。

昨冬利用した感想を聞くと、「以前には雪を用水路に入れると、下のほうでは雪がつまり、水が道路にあふれることがしばしばあったが、この消融雪溝の場合だと、そういう問題がなく、たいへん便利だ」ということです。

流水のエネルギーに着眼した、この経済的で効果的な方法。地域の克雪対策と

雪に強く安全な住環境を

克雪といえば道路の雪処理が中心に考えられますが、一方では私たちの生活の拠点である住宅という観点から、雪国に合った安全な住宅づくりを進めていく必要があります。

これまで、私たちの頭には雪国での生活では屋根の雪下ろしは付きもの、といった既成概念がありまし



して、流水の豊富な所ではぜひ検討してみる価値があります。

た。しかし、最近になって建築家の間では、雪下ろしをしないですむ方法はないか、雪を屋根にのせたまふ融かす方法はないか、といった研究をする人が出てきました。

そういう研究や実践をしている事例を、手もとにある資料からいくつか取り上げてみましょう。



消融雪溝の実現により、雪がつまり水があふれ出すという悩みは解消された。

①耐雪構造Ⅱ住宅を雪の重さに耐えられる程度に頑丈なつくりにし、屋根にのせた

まま自然のエネルギーで融雪する。(屋根の中央が低く、雪が中央に集まる)

②融雪構造Ⅱ①と屋根型が同じだが、屋根中央の溝の両側にヒーターを通して雪を溶かす。

③水平屋根Ⅱ屋根が平だと雪が風で吹きとばされ、地上の三分の一しか積もらず、雪下ろしの必要がない。

雪下ろしが不要となればこれまでやってきた下ろした雪の運搬も不要となり、労働力の大幅な軽減につながります。

効果大きい消融雪溝

松程 佐竹 オキヨさん

以前の水路にも雪を入れていたのですが、上の人はいいとしても下にくると雪がつまり道路や住宅の床下まで水があふれてくることで度々あって困っていました。

昨年消融雪溝が整備されてからは、そういった問題がなくなりたいへん喜んでます。最初、雪を入れるだけでそんなに消えるもの

だろうかと、半ば疑っていたのですが、実際使用してみると、溝にいっぱい入っても二〜三時間で消えてしまうので驚きました。流れの速い所ほど早く消えるようです。

でも、雪を突っつかないで落ちていかないので、所々の仕切板を単位に、自分で入れた雪は自分で管理するというのが必要です。

松程は豊富な水があったから、この事業ができたわけで、百二十年も前に集落内にきれいで豊富な水を引いてくれた御先祖様に感謝するとともに、この消雪溝が松程の誇りと思います。



また、屋根に上がる危険性もなく、構造上雪が軒先にかぶさってきたり、つららが下がることもないので、軒下に雪塊が落下する心配もなく、安全性とい

った面からもメリットが出てくるわけです。

これらの方法が一般に受け入れられるには、相当の時間がかかりそうですが、雪国での生活のハンディキ



快適な融雪住宅

大町 斉藤 清 志さん



中央にステンレスの溝があり、その両側にヒーターがついている

ヤップをいくらでも少なくするために、ぜひこうした

雪国の特権を活かそう

これまで雪はやっかいな

この住宅で一冬すごしてみても、雪下ろしの必要がなく出入口の排雪だけですとても楽です。山形で成功したので、ぜひお宅でもやってみないか、と大工さんにすすめられてこの構造を取り入れることにしたんです。

雪を屋根にのせたまま自然エネルギーとヒーターの両方で融雪するやり方なんです。電力会社との夜間電力使用の特約なのでわりあい安く昨冬全部で二万円ほどの電気料でした。

柱は四寸角を使っており、二階の積雪まで大丈夫といわれていますが、雪がたまったな、というときにヒーターを入れるわけです。

建築経費は材料増しなど一・五割から二割くらい多くかかったようです。

検討もしていく必要があるでしょう。

もの、排除すべきものと、

とらえられてきました。しかし、これからは雪に対する考え方を変えていかなければなりません。雪があればこそできるという雪国の特権を活用しないでは、宝の持ちぐされになると思います。

わが町では利雪という面

で白倉スキー場

の整備とその拡張に力を注いできました。今後

も家族旅行村整備事業の中で、

上級者向けのゲレンデの整備を

計画しています。

す。メインとして

張、充実がぜひ

必要なこと

です。スキーを中

心にしながら冬

の観光として誘客を図るための



青年と都会の独身女性との交流会で夜まつりをやった（60年2月）

イベントがぜひほしいものです。雪のない所に住んでいる人を対象にするとすれば、やはり雪を利用したものがうけるのではないでしょう。

例えば、雪見酒ならぬ雪見ワイン。町に来なければ飲めないアイスワインで朝日牛のステーキ。リンゴ利用の料理もある……。また、雪まつりでは雪像づくりや雪上運動会。さらには昔ながらの生活体験や民芸品づくりなど、雪国だから

こそできるイベントがいろいろと考えられます。

ロマンと夢のある雪国をめざし、雪を活かしたアイデアをみんなで出し合いながら、できるものから取り組んでいきたいものです。

除雪に御協力を

①除雪する道路には駐車しないでください。とくに夜間は注意しましょう

②除雪機械には近づかないようにしましょう

③屋根から下ろした雪や玄関などの雪は、道路に出さないようにしましょう

④除雪車によって車庫や玄関の前に押されてきた雪は、各家庭で処理されるようお願いいたします

⑤冬期間は道路が狭くなりますので交通事故には十分注意しましょう

※除雪関係の申出は区長さんを通してください



小林町長から表彰を受ける受賞者

社会や人のために 尽くされたかたを表彰

秋季区長会の席上

*町政すばつと

長年にわたり町の発展に
尽くされたかたや社会のため
に目立たないところで地道な
活動を続けてこられたかたなど
の表彰式が、十一月二十六日の
秋季区長会の席上行われました。
表彰されたかたは次のとおりです。

*地方自治功労者

▽柴田孝太郎(元町・79歳)
長年にわたり統計調査員、農事実行組合長などを務め、区や町の振興発展に貢献。

*教育功労者

▽小林 馨(大沼・70歳)
長年にわたり教育委員として町教育の発展に貢献するとともに、委員長などの要職を歴任。

*産業功労者

▽菅井 敏夫(西町・60歳)
長年にわたり商工会理事、建設クラブ事務局長、観光協会副会長、漁業組合理事などの役職を歴任

*保健衛生功労者

産業の振興発展に貢献。
▽大野 孝(小原・58歳)
昭和四十五年メリヤス同業会を結成し、初代会長として指導性を發揮。町ニット業界の振興、町産業の発展に貢献。

▽鈴木 保(夏草・73歳)
長年にわたり学校歯科医師として児童生徒の健康保持に尽くされるところに、地域の医療活動に精励され、住民の健康と福祉の増進に貢献。

▽佐竹とめの(常盤・72歳)
長年にわたり助産婦として活躍、その間千二百件余りの助産活動と町の母子保健向上に貢献。

*人命救助功労者

▽鈴木ちよの(大谷・48歳)
大堰に転倒し意識不明になった人及び雪に埋まり姿が見えなくなった人を二度にわたり臨機応変の措置により救助した。

秋季区長会で

懸案事項を協議

十一月二十六日、秋季区長会が中央公民館で開かれ現在課題となっている事柄について協議されました。内容は次のとおりです。

①宮宿立木線のバス路線廃止について

廃止になれば、交通弱者にとって、通学、通院、買い物などたいへんな問題である。山交への運動と共に、万一廃止された場合は、町独自でマイクロスバスなどを走らせてほしい。

△町側Vいろいろな方面から対策を検討中。沿線住民

の協力を得ながら官民一体となって進めていきたい。

②西小グラウンド整備について

土地の確保も終わり地区民の気運が盛り上がっている。早期に整備してほしい。

△町側V六十一、六十二年度継続事業で計画。

③主要地方道長井・大江線の夏草地内の道路改良について

町内でいちばんネックとなっている道路。車社会にふさわしい拡幅整備を。

△町側V松程地内の工事終わりしだい着工すると果では言っている。

④敬老百歳祝金を新設するよう提案

にぎやかに産業まつり

☆産業大賞に大町商店街協同組合

第七回産業まつりは、「見つめよう朝日町、開こう明日を」をテーマに、十

一月十六日、十七日の両日にわたり、町民体育館と中央公民館で開催されまし

*善行褒賞者

▽浅井 重弥(本町・54歳)

ふるさと芸能の重要性

を認識され、後継者の育

成指導にあたり、伝統民

族芸能を継承されている

▽安藤 市三(元町・64歳)

右に同じ

▽清野 馨(四ノ沢・58

歳) 交通安全指導はも

とより、地区カーブミラ

ーの清掃、安全標識の設

置などを率先して行っ

ている。

▽長岡 房子(高田・50歳)

多忙な家業に励みなが

ら、病身で寝たきりの義

父を、心身の疲労をもち

とわず、今日まで十九年

余りにわたり献身的に看

病に尽くされた。

▽長岡やす子(太郎一・73

歳) 二十年余りの長い

間、独り暮らしの老人を

家族同様、献身的に世話

をしている。

▽堀 政一(舟渡・66歳)

家事全般を男手一人で

切り回しながら、三人の

子どもを養育するとても

に、今日まで四十年余り

の長い間、病弱な妻を励

まし献身的に看病に尽く

された。

*賞 詞 者

▽志藤 ふを(能中・76歳)

私有地にゲートボール

場をつくり区民に開放

し、老人の憩いの場を通

して健康増進に寄与して

いる。

▽阿部 明美(栄町・15歳)

転倒し歩行不能な老人

を発見するや、激励し付

近の人に助けを求めるな
ど臨機応変の措置により
救護した。

*技能者表彰

▽熊谷小三郎(新宿・63歳)

長年にわたり建築大工

としてその職を全うし

て、多くの後継者を育成

し、技術の向上に努める

など、常にたゆまざる努

力をされている。

▽楠 多美男(大谷五・56

歳) 右に同じ

▽長岡 清美(太郎一・53

歳) 右に同じ

▽鈴木みや子(松程・50歳)

長年にわたり理容師と

してその職に精励し、常

に技術の向上に努力され

ている。

珠算競技大会

パチ
パチ

町商工会と町珠算教育振
興会が主催する珠算競技大

会が、十二月八日中央公民

館で開かれ、町内の小学生

九十二名が参加しました。

▽総合

成績は次のとおりです。

①鈴木由美(大暮山分校)

②長岡リカ(同) ③相楽

純(大谷小) ④白田真紀

▽種目

小)

(同) ⑤斎藤俊世(宮宿

①白田恵(大谷小) ②斎

藤俊世(宮宿小) ③相楽

純(大谷小) ④長岡都

(同) ⑤原留美(同)

た。

会場にはリンゴ品評会へ

出品されたリンゴがズラリ

並べられ、ワインの試飲、

即売コーナーや町内企業で

つくられた製品の展示、即

売コーナーが設けられるな

ど、地元産物で一色。一方

では米まつりも行われ、も

ちつき大会をはじめ、寿司

コーナーなどが設けられ、

二日間にわたり約三千人の

人出でにぎわいました。

まつりの中で各種表彰式

が行われました。

今年産業大賞に輝いた

のは、大町商店街協同組合

(川嶋正一組合長)。町内の

有志による産業大賞

協賛会から副賞とし

て楯と賞金三十万円

が贈られました。

同組合が評価され

たのは「組合員が一

致協力し、自らの力

で共同駐車場の整備

を行うとともに、後

継者の育成、各種イ

ベントの開催。商店

街環境の整備などに

積極的に取り組み、

商店街の活性化に努



産業大賞を受賞する大町商店街組合員

力している」といったこと
です。また、良質米共励会
とリンゴ品評会の上位入賞
者は次のとおりです。

▽良質米高位安定生産共励
会

最優秀賞Ⅱ白田嘉蔵(大

谷六) 優秀賞Ⅱ布施栄悦

(助ノ巻)、佐藤隆夫(新

宿) 優良賞Ⅱ渡辺秀雄

(水本)、阿部光好(太

郎一)、長岡剛(太郎二)

▽リンゴ品評会

最優秀賞Ⅱ菅井健吉(小

原) 優秀賞Ⅱ井沢寿一

(夏草) 金賞Ⅱ渡辺治男

(能中)、渡辺勝男(元

町)、佐竹守(常盤)

講演の要旨を紹介します

地域づくり講演会(11/11・農業団地センター)

手づくりのふるさと

日本ふるさと塾主宰 萩原 茂裕氏

自分の住んでいるまちをどのようにしたら住みよく活力あるまちにすることができたらどうか。これは、だれもが望んでいることだと思えます。働く場所がない、雪が降りし寒い、過疎だなど自分のまちの悪い所だけを拾い集めてグチをこぼしても何にもなりません。自分の住んでいるまちを自信を持って他の人々に話すことができないし、子どもたちにも夢を与えてやることもできません。



萩原 茂裕氏

どんなまちにも、必ず良いものがあります。「燈台もと暗し」で案外気がつかないことが多いものです。この長所を工夫して活用しなければなりません。今までは何でもかんでも東京が中心であるという考えでしたが、日本全国を見ると地方において、すばらしいまちづくりをしている所がたくさんあります。このようなまちは人口も伸びており

ますし必ず代表的な産物、施設があり、町民が誇らしげに自分のまちを紹介しています。

まちづくりは人づくりとよくいわれます。自分のまちを好きだと思っている人の数でまちの将来は決まっています。地方の経済は農山村へ行くほど自律的な力は弱くなり、公共事業への依存が強くなります。

その公共事業も国の財政が苦しく減っています。今自分たちの手で村おこしをやらう、手づくりのまちをつくらう、これをあせらずじっくりと行っているところとしていないところでは、二十一世紀に大きな差が出てくると思います。

町おこし講演会(11/14・中央公民館)

明日の経営戦略

経営評論家 長谷川 肇氏

皆さんは自覚ないうちに世界に遊飛する民族になっている。この朝日町でいい

なあり、と感動的に考えたものが世界に通用するという可能性が十分にある。

新しい町づくりテーマに

活発に意見交換

「新アルカディア朝日」シンポジウム

アルカディアとは、古代ギリシャにあった牧歌的幸福の理想郷のこと。

み生産人口が減っても、極端に活力が衰えないよう対応していかなければならない。国際化に対処するには、友好、親善の意味だけでなく、これからは産業、文化の交流が大切である。

東北、山形の良さを生かしてものになる時代。自然を求め、地方の文化を求める傾向が強くなる。何か一発イメージアップ作戦がほしい。仙台に近く、東京にも比較的近い。地の利を活用すべきだ。

▽パネルディスカッション
●連合青年団・長岡裕二氏
「中央からの情報を受けるだけでなく、朝日町が一世を風びするものはないか。若者の新しい感性も取り入れてほしい」

▽基調講演・「二十一世紀の新アルカディア山形」
●県企画調整部計画監・富塚陽一氏「二十一世紀は、高齢化、情報化、国際化の時代といえる。高齢化が進

●連合婦人会・長岡京子氏
「婦人会活動の目的は、自己学習とボランティア。現在文化教室の参加者が四百人もいる。今後も家庭と地域の明るさの向上に貢献し



お年寄りをねらう悪質商法

大きな社会問題になった豊田商事の詐欺まがい商法の被害者の多くはお年寄りでした。

同社の手口はまず女性が電話をかけ、反応がよい家に男性セールスマンを派遣するやり方。電話をかける「テレホンレディ」やセールスマンには、まず世間話をして相手に取り入ってから、金^{カネ}の話をもち出すよう徹底的な指導をしていました。

このため、独り暮らしのお年寄りに数時間も話し相手になったり、肩をもんだり、はては添い寝をするセールスマンまで現れました。豊田商事グループの一つ、鹿島商事になると手口はもっと悪質で、セールスマンが区役所職員を装って現れ、「年金の法律が変わって手続きが必要になった。このままにしておくと年金が少なくなる」と嘘をいい、預金通帳を預って引き出し、同社の販売するゴルフ会員権を買わせていました。

明治以来、外国の文化を取り入れることだけに力を入れ、記憶と再生だけの画一教育を続けてきた。努力と根性で欧米に追いつくためにやってきた。

今の時代に要求されるものはイマジネーションとオリジナリティー、つまり創造力である。自分で何かを生み出す時、画一教育の頭では通用しない。

努力と根性は限界にきた。これからは好きな道に進めば努力と根性はあとか

らついてくる、という考え方が大切だ。好きでもないことをやれというから若者はやる気がない。

だれしも一能ある、その能力を発見し発揮させることだ。能力を発見するも発揮させるも、場を与えるのが親の役目。上に立つ者の役目である。助手の立場に立つことが大切だ。

商売でも好きで好きでしかたがない人が経営していかなくては通用しない時代。これまでヨーロッパ文明



長谷川 肇氏

が時代をリードしてきた。東と西の両文明が交替期に入った。東西両文明を持つのが日本人。その中の山形県そして朝日町だ。おのずからやる気と勇気が出るはずだ。

ていきたい」

●商工会・川嶋正一氏「商

工会の活動として、最近の花いっぱい運動や街路灯の更新、駐車場の整備を進め地元愛用運動も推進中である。人間性豊かなふれあいのある商業活動を通して、

若者が住みたくなる町づくりに貢献していきたい」

●工業振興協議会・柴田圭

三氏「時間に追われ、経済にしばられている現状では理想郷にほど遠い。コンピュータやロボットは命じたことをするだけで、創造するのは人間。工業の未来も人間中心で進めていきたいものだ」

●農協・菅井正人氏

「日本一味のいいリンゴが朝日町にある。しかし、リンゴだけでは二十一世紀に向かえない。木の実が山にたくさんある。リンゴも木の実。木の実は町として進めないか」

●助役・熊坂正一氏

「わが町は高齢化が進み、活性化が失われようとしている。今すぐ

若者定住策を打出していかなければならない。また、今回のフィリピンからの花嫁さんのこともあり、国際化を進めるうえで、外国語を知ると同時に外国の文化を知らなければならぬと痛感した」

●議会・堀恒夫氏「家族旅行の計画について議会でも検討している。朝日山ろくの自然を生かしたレクリエーション基地にするにはどうするか、地元産品をどう創出するかなど課題が山積しているが、これを推進していくには町民一丸となった協力が必要である」



各パネラーの提言をもとにディスカッション



食生活改善推進員による料理の試食コーナー



おとうさんも、ウーン

*文化教室の発表活発に

連合婦人会主催による母ちゃんたちの祭典・第4回婦人まつりと健康のつどいが、12月4日中央公民館で開かれました。

各種文化教室の1年間の成果を発表。母ちゃんたちのパワーとがんばりが表われていました。

また、各種検診の統計グラフや、食事と栄養についての資料展を見たり、「心の健康」をテーマにした講演を聴くなど、有意義な一日となりました。



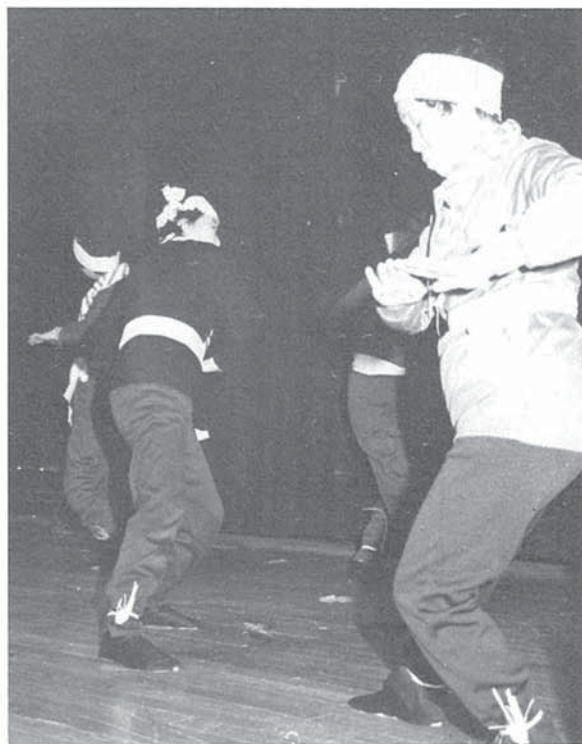
家庭で手軽にできるお茶を披露

祭典

健康のつどい



かなりしょっぱいわねー (塩分測定テスト)



民謡体操「もみすり唄」



婦人の気持ちが一となり、ムードは最高潮



クリスマスの前にデコレーション
お寿司はいかが？

にぎやかに 母さんたちの 第4回 婦人まつりと



民謡体操は華やかさでいっぱい



書道部員もふえている



上郷地区健康を守る会の実践に学ぶ

自主的な地域医療を続けて十年

昭和五十年十月、寒河江市西村山郡医師会の「青い鳥」運動による検診が、上郷地区で行われました。

その結果、受診者の約八八割もの有所見者があり、向う二年間の地域医療モデル地区に指定されました。

地区はこれを厳粛に受けとめ、昭和五十二年三月「上郷地区健康を守る会(現在花山伝夫会長)」を結成。「私たちの健康は、私たちが守ろう」と、主体的で適切な事業を展開してきました。

多彩な

「健康まつり」

六十年十一月三日、上郷地区集落センターの一室では、婦人たちが手近な材料で、減塩でパランスのとれた料理を作っています。

他方では、各自ビンに入れて持ち寄ったみそ汁の塩分濃度を測定器で測り、指導を受け、また減塩みそ汁

の試飲をして、アンケート用紙に感想を記入したりしています。

壁間には、写真やパネル、調査した統計資料などが展示され、熱心に見ている人たちがいます。

午後は映写会で、「食生活と主婦の知恵」「農薬を効果的に散布するために」が上映されました。

終ると食生活改善料理の試食がありました。

上郷小学校庭では、朝からゲートボールの講習です。老いも若きも一緒になって技を学びそして競います。

午後は集落センターの行事に合流し、最後に反省の座談会があつて終了しました。

これは、日ごろの実践を集約したもので、このような充実した組織的な活動の背景には、長い努力の積み重ねがあつたのです。

守る会の

ねらいと事業

「上郷地区健康を守る会」は次の目標を掲げています。

- ・地域ぐるみの保健活動
- ・健康教育による衛生思想の向上
- ・集団検診受診率の向上
- ・成人病の追放と健康で住

表1 塩分摂取状況
(各自3日間食事記録)

調査日	54年 2.19~21	55年 3.24~26	56年 2.14~16
塩分量			
10g未満	2(1.3)	4(2.7)	25(19.4)
10~15g未満	34(21.5)	47(31.8)	53(41.4)
15~20g未満	79(50.0)	71(48.0)	41(31.8)
20~25g未満	40(25.3)	24(16.2)	7(5.4)
25~30g未満	3(1.9)	2(1.3)	3(2.3)
調査数	158	148	129
平均摂取量(g)	17.5	16.7	14.1
最高 // (g)	23.1	30.5	28.5
最低 // (g)	6.0	7.9	4.4

みよい地域づくり

四つの目標を達成するために、正副会長のほか、四部落からそれぞれ三〜四人の役員を選出して役員会を構成し、会の中核とします。

役員を、総務、環境保健、文化体育、婦人の四部に配属、事業を分担させます。

具体的な事業としては、衛生教育「健康教室」

の刊行、健康管理のPRと塩分調査など

運動会の開催

公害防止活動 防疫剤の散布と家畜し尿処理等の指導、不法投棄物の処理、空かん拾いなど

健康まつりの開催などで、きめ細かに、かつ継続的に進めます。



健康まつりで、地区民の健康への理解を深めている

表2 食事のバランス状況

調査日	優 28~30	良 25~27	可 22~24	否 21以下	平均 点数
54.2	0(0)	3(1.9)	18(11.4)	137(86.7)	18.0
55.3	0(0)	1(0.7)	10(6.7)	137(92.6)	17.3
56.2	0(0)	3(2.3)	19(14.7)	107(83.0)	18.9

受診率の

向上をめざす

病気は予防すること、そして早期発見と早期治療が大切です。そこで検診はみんなそろって受けることを重点目標としました。

初めのころは低調で、例えば、五十一年の受診率は三一・五割に過ぎませんでした。

理由を検討すると「丈夫だから」という自信感がほとんどで、「病気といわれるのがこわい」という不安感、時期が悪い、不信感ありなどでした。

五十一年の検診で、八七・九割もの有所見者（疾病異常が認められる者）があった事実も勘案して、「健康感のあるうちに受診する」を目標に、啓蒙に力を入れることにしました。

「健康教室」に「検診を受けて楽しい我が家」を連載し、部落ごと座談会の開催、部落役員や婦人会役員によるPR活動、放送による呼びかけ、戸別訪問による

受診申込書の回収など、総力をあげて取り組みました。

その結果、五十三年には、対象者約二五〇人中、参加できる状況にある者約七五割という中で、対象者の七一割が受診しました。

以後、受診率は常に六〇割以上を占め、三十歳（五十三年から四十歳）以上六十五歳までの住民のほとんどが、受診するようになりました。

食生活改善を

すすめる

塩分一日の摂取量を一〇g以内と、栄養のバランスのとれた食生活を目標に、次のことを行いました。

・基礎的食品についての理解を深める栄養教室
・バランスのとれた料理や試食の講習
・地元での材料での献立表の作成と普及

・減塩料理やみそ汁の普及
・食生活の各種実態調査
表1「塩分摂取状況」では、一〇g未満が五十二年

は一・三割と少なかったが、五十六年には一七割に増し、平均摂取量も一七・五gから一四・一gに減っています。

表2「食事のバランス状況」は、

食事内容を「肉・魚・大豆類」「乳類・海藻類」「緑黄色野菜」「その他の野菜・果物」「穀類・いも類・砂糖・菓子類」「油脂類」の六つの基礎食品に分け、一日三十点満点で採点した結果です。

優・良が少なく、否が七〇割以上と多く、食生活改善事業の困難さがよくわかります。

「みそ汁塩分濃度測定」では、目標とした〇・八g以下が、五十四年二六・五gから五十九年五八・八gと急上昇し、一・二g以上の濃いものも、二三・八gから七・九gと激減し、努力の成果を物語っています。

＊「継続は力なり」といわれるように、努力は必ず報

表3 検診実施前・後の主要死因

主要死因	実施区分 検診実施前 45~49年	検診実施後 54~58年
脳血管疾患	17(42.5)	8(24.2)
悪性新生物	6(15.0)	8(24.2)
心臓疾患	6(15.0)	5(15.2)
その他	11(27.5)	12(36.4)
計	40(100)	33(100)
再掲 三大成人病	29(72.5)	21(63.6)

われます。

表3「主要死因別統計」では、検診実施前と後の五年間の平均死亡率中、三大成人病のそれは、七二・五割から六三・六割に減少し、とくに脳疾患では四二・五割から二四・二割に激減しています。

地区民にも健康管理の良習慣が定着し、要治療者が減少し、健康に対する意識の変革が見られます。

こうした実績に対して、五十六年に山形県地区衛生組合連合会長賞、そして本年八月には山形県公衆衛生大会長賞が贈られました。

私たちは謙虚にこれらの実践に学び、そのあとに続くよう努めたいものです。

（編集／教育広報委員会）



齊藤昌三さんが

県スキー連盟理事に

このほど白倉スキークラブ会長齊藤昌三さん(本町・五十歳)が山形県スキー連盟理事に選任されました。これは昭和五十八年に県スキー連盟に加盟して以来の白倉スキークラブの活躍が高く評価されたものです。

齊藤さんは、昭和五十二年に発足した朝日スキークラブ(白倉スキークラブの前身)の会長に就任以来、八年間、町スキーの振興発展に尽くされています。なお、クラブでは現在、指導員、準指導員の有資格者が八名育っています。



朝日AチームV2

☆西村山地区駅伝競走大会



V2を勝ちとり喜びの選手たち

第三十二回西村山地区駅伝競走大会は、十一月十二日地区内一円七八・六キロのコースで展開され、朝日Aチームが四時間二十六分二十七秒のタイムで、昨年に引き続き優勝を果たしました。今回は一市四町から八チームが参加。朝日Bチームも高校生を中心としたチーム編成の中で、すばらしい健闘ぶりを見せ、六位に食い込みました。

朝日Aチームは、社会人のベテラン組に大学・高校生を加えた編成。一区は二位でゴールしたものの、二区の地元入りで一気にトッブに躍り出て独走態勢に。そのあとも各選手共うまいペース配分で走り抜きそのままゴールインしました。

最近高校生を中心に後継者が育ってきており、朝日町長距離界の今後いっその活躍が期待されます。

Aチーム 選手/松尾孝二、齋藤和彦、阿部正昭、早坂健一、宮田謙一、堀江和広、海野宏行、菅井繁美、佐藤吉範

この広場は、町内の話題や皆さんの声をつくるページです。
どしどしお寄せください。

みんちには 保健婦す

かぜを寄せつけない体力づくり

冬將軍の到来とともに増えてくるのが『かぜ』患者。寝不足や残業などで疲れているとき、混雑した乗物の中やデパートから寒い戸外に足を踏み入れたとき、背すじがブルツとして『あのとき』とかぜの原因に思いあたることがよくあるものです。健康管理のちよつとしたスキに、かぜがはいり込むなどということのないように、かぜを寄せつけないからだづくりの方法を再確認してみましょう。

① 偏食するな

「生命は食にあり」のたとえのように、あなたの毎日の食事が病気をつくったり、ウィルスの感染をしやすくしたりするものになっています。場合もあります。寒さのために低下しがちな新陳代謝を高めるためにも、図のように6つの基礎食品を組み合わせ、バランスのとれた食事をするように心がけましょう。

② 十分睡眠をとろう

一日の疲れを解消するうえで睡眠の役割はとても大きなものがあります。

③ からだを鍛えよう

乾布まきつ、縄とび、ジョギングなどで積極的にからだを鍛え、汗をかいたらすぐにふいてからだを冷やさないようにしましょう。

また、外出から帰つてのうがいは、口やのどを刺激して細菌の抵抗力を高める効果があります。手洗いとともに実行しましょう。



今日の顔

県女子駅伝に出場した



西船渡 鈴木 敦子さん

高まる女子マラソンブームの中で、このほど第二回県都市対抗女子駅伝が山形市で開催され十一チームが参加した。一チーム四名という小人数の編成だが、寒河江・西村山チームの一人に選ばれた朝日中一年の

この人。チーム内では唯一の中学生レギュラーである。レースは県陸上競技場前広場をスタート、村木沢で折り返す一九・四二キロのコースで行われたが、彼女は一区(四・八キロ)を走り、

高校生や社会人が多い中で堂々七位に食い込んだ。「これまで五キロを走ったことは二回しかないのですが、ペース配分などまだわかりません。途中腹が痛くてビリのほうになったけど、がまんして走り何とか七位まで出ることができました」

結局、寒河江・西村山チームは五位となったが、メンバーのがんばりで大会新記録をマークした。

「現在は陸上部がないのでバレー部に入っているが、高校へ行ったらぜひ陸上部へ」と今から意気込んでいる。

力強く シュート! 町民バスケットボール大会

恒例の町民バスケットボール大会が、12月8日町民体育館で開かれ、12チームが熱戦を繰り広げました。

チーム編成の条件として女子が35歳以上の男子が1名入ることとされており、若いエネルギーをぶっつけ合う反面、なごやかな場面も見受けられました。

結果は次のとおりです。

▷優勝=フレンズ(岡崎正志監督)▷2位=朝日相扶B(阿部健一監督)▷3位=ハッ沼スポーツ愛好会(佐竹正行監督)町職労(渡辺政一監督)



若さをぶっつけ合う選手たち

夫婦の人生航路五十年

三十組がめでたく金婚

苦楽を共にしながら人生航路の荒波を乗り越えて五十年を迎えた、めでたい夫婦を招いて、十一月十五日高齢者センターで金婚のつどいが開かれました。

今回金婚を迎えたのは三十組の夫婦。まず熊坂助役が「皆さんは戦後の復興期に、また高度成長期に活躍してこられた。結婚五十年まことにめでたい。これから元気で町づくりに御指導をいただきたい」とあいさつしたあと、佐竹議長、海野区長会長、鈴木連合婦人会副会長からそれぞれ祝辞が述べられました。

次に全部の夫婦に賀詞と記念品を贈り金婚を祝いました。大谷一の浜田源太さんが出席者を代表し

て謝辞に立ち「早いもので結婚して五十年がたちました。これまでの人生航路を二人で無事乗り越えてこられたのも、町や地域の皆さんのお陰。これからは新たな気持ちで、健康に注意しながら二人で助け合って暮らしていきます」と述べました。



会場となった高齢者センターは、喜びでいっぱい

へるさと 便利

▶ 42 ◀

日本の裏側のふるさと

白田 敬二さん (旧姓・阿部)

《アメリカニューヨーク・夏草出身》



昭和四十七年六月渡米、
滞米生活十四年。当時、前
後左右、異国の生活にとま
どいながらも、現在ではそ
の生活すべてが大地に根を
伸ばしつつ、生活しやすい
アメリカ社会で日本人的生
活を営み続けております。
当時の小生は、語学力皆
無で、言葉の苦労から始ま
り数々の失敗談。当時とし
ては笑うに笑えぬ真剣さで
した。

渡米一週間後、小型トラ
ック(二トン車ぐらい)を
運転。市内配達(当社製品
Ⅱ豆腐、油揚げ、モチ、白
菜漬けなどのジャパンフー
ド)なのだが、行く先々で
道に迷い続けました。

話すこともできず、まし
て聞くこともできず……文
字どおり「おれの行くところ
どこだんべ」という具合。
行くに行けず、帰るに帰れ
ず。すべてが一方通行。一
方通行の経験のない小生に
は、迷路に入ったように方
向感覚ゼロ、ほとほとやせ
細りました。

また、郵便局での出来事。

「十五セントの切手を五十
枚下さい」という言葉。日
本語ではいとも簡単な言葉
なのですが、語学力のなか
った小生には言い方がわか
らず、泣くに泣けないハブ
ニングが起こりました。
下くちびるをかんでの発
音、「フエフティーン」と
「フエフティ」。小生にと
って、十五も五十も同じ発
音なのでした。

渡米一年後、昭和四十八
年八月、家族が来米。アパ
ートメントを探し、日用
品、家具など一応中古品な
がらも取りそろえ、親子水
入らずの生活が始まりまし
た。

日本からはるばる家族に
付き添ってきてくれた母親
と、ナイアガラホール、マ
テンローのそびえたつマン
ハッタン観光。生まれて初
めて少しばかりの親孝行の
まね事ができました。とく
に、ナイアガラホルの遊
覧船内での母親の一言に対
し、熱いものがこみ上げて
きました。

渡米六年後、昭和五十三

山東菜、だいこんを初出荷

丸正食品㈱との契約栽培

遊休化している農地を活
用して地域活性化を図ろう
と、今平、大舟木地区に自
然食農場が計画されていま
すが、このほど丸正食品㈱
との契約栽培をして作付し
た、だいこんと山東菜の出
荷が十一月十四日と十一月
二十八日に行われました。

旭正会(佐藤健次長会長
・会員五十六名)で
は、同地区のほか
杉山、水本地区に
も契約栽培を進め
て、だいこん二回、
山東菜五〇回を作
付したものです。

今年は、試験的に
二種類の作付でし
たが、品質が良か
ったことから、今
後拡大していこう
と考えています。
また付加価値をつ
けるため、一次加
工して出荷するこ
とを検討しています。
とかく畑作はせっかく作
っても流通や価格変動で不
安定な経営になりやすかつ
たわけですが、契約栽培の
場合、流通経費の面や規格
外品の加工により安定し、
今後の地域活性化に大きく
貢献するものと期待されま
す。



だいこんの出荷作業をする旭正会員

いま 朝日校で

今年の合唱祭は十一月九日に行われた。例年だと、本校と分校の合同の合唱祭なのだが、今年は都合で分校だけの合唱祭となった。

合唱祭

分校だけでやったのでクラスの数も少なく、もうひとつ盛り上がりなかった。しかし、合唱祭前の練習の量や、合唱祭にとりくむ真剣さなどは昨年を上回るものだった。とくに三年生はこの合唱祭が最後ということもあって練習への熱の入れ方が、一、二年とは全く違っていた。それにひきずられるように一、二年も必死に練習した。練習期間は十日ぐらいたったが、毎日どのクラスからも歌声が放課後おそくまで聞こえて

いた。そして合唱祭当日、最後の練習を終えて、いよいよ本番。どのクラスも、練習の時よりも一段とがんばって歌った。どの合唱も心がこもっていて、どれも優勝させたような合唱ばかりだった。やはり三年生が優勝、準優勝だったが、一、二年生も三年に勝るとも劣らないすばらしいできだった。来年度もこのように感動的な合唱祭をやりたいと思う。

(文化体育部長・相座裕行)

年の夏、家族全員の一時帰国。高校時代の学友、親友に会いました。さぞ昔の友達との話にエキサイトするのでは、という大きな期待に胸をふくらませていましたが、そこにいた友達は昔の友達、今の友達ではありませんでした。

ニューヨークにも少しばかりの四季があります。春にはワラビ採り、イチゴ狩り。夏には海水浴や数々のスポーツ。秋にはリンゴ狩り、芋煮ならぬバーベキュー。冬にはスキー、スケート。

今では子どもたちも大きくなり、ワラビ採り、海水浴、リンゴ狩り等々はおよびでなくなってきたが、現在では、アメリカンフットボール、野球に汗を出すようになりました。ワイフはテニス、小生は毎週末のゴルフを楽しんでいます。ハルディキャップは十六。ゴルフの魅力にとりつかれ、異国(ふるさと)での生活をエンジョイしている今日このごろです。

小、中とも優勝

寒河江市長杯剣道

寒河江市長杯剣道大会が十一月二十四日市民体育館で開かれ、西村山地区一円の小・中学校から五十三チ

ームが参加しました。朝日町勢は大谷小が男女共優勝するなど、すばらしい成績をあげました。

▽優勝／大谷男子A、大谷女子A、朝日中男子A

▽三位／送橋男子A、送橋女子A、朝日中女子

リンゴとワインの 家庭料理

②ノルマンディー風焼き肉

■材料

豚肉(うす切り)	500g
リンゴ	1.~1.5コ
にんにく	1カケ
しょうゆ	80~100cc
白ワイン(または酒)	20cc
化学調味料	少々
キャベツ	} 盛り合わせに
パセリ	

■作り方

- ①ボールに、にんにく、リンゴのすりおろしと、しょうゆ、ワイ

ン、化学調味料を混ぜ合わせ、肉をつけ込み、10分くらい下味をつけます。

- ②下味のついた肉の、リンゴなどをきれいに手ではらい落とし、フライパンに少しの油をひいて焼きます。

- ③盛り皿に、線キャベツをのせ、肉をのせ、フライパンの肉汁と下味の汁を煮詰め、熱い汁を肉にかけてめし上がってください。

- ◎鉄板焼にするときの下味としても、使ってください。

- ◎肉の厚さによって、下味の時間を、変えてみてください。

(広報委員・柴田泰子)

国民の 声

健康者褒賞を してください

先月二十六日に自治功勞者、善行者などの表彰式がありました。たいへんけっこうなことと存じますが、それ以外に健康功勞者も表彰の対象にしてはと思います。

まず手始めに、七十五歳以上のかたで齒科、外科、内科、治療院などに五年以上もかかったことのない健康老人がおります。本人や家族はもちろん、ひいては町、県、国まで幸せが延長されております。

先月の新聞に掲載された全国の健康マップによると七十歳以上の一人当り年間医療費は、北海道六十八万二千元、全国平均四十五万九千元、山形県平均三十三万九千元、朝日町二十六万七千元です。

本県でいちばんかかっているのは、山形市が四十三万円です。しからば、なぜ

朝日町の老人は元氣なのか。リンゴ、ブドウ、柿などを適当に食べ、空氣良し、水良し、人情味あり……。医療費が少ないから保険税が安い？その因果關係は私たち素人にはわかりません。

われわれ老人の医療費はただ同様ですが、国、県、町の援助あればこそ世界一の長寿大国に成功したので

す。朝日町は県内でも老人の多い町ですが、それはめでたくもあり、裏を返せばめでたくもなしです。

朝日町には五人の献体者もおられ、三十回も献血された篤志家もおられます。

交通事故や手術重病患者に欠かせないのは血液です。医学、科学万能時代といえども人工血液はありませ

ためなのです。

イギリスの看護婦ナイチンゲール（一九一〇年没）は、クリミア戦役の際、敵味方の差別なく看護に当たり、世界に赤十字設立の動機をつくられた博愛精神の持ち主でした。献体者、献血者もナイチンゲールの血が流れ通っているのです。

当町には一カ月一千三百万円もかかる重症の心臓病患者はいないようですが、これほど不幸で氣の毒なことはありません。病氣は好

胃のない仲間 結束し二十年

胃なし人間で組織している朝日町む胃会（浜田源太会長・会員一九〇名）が、このたび発足以来二十周年を迎え、中央公民館で記念式典を開きました。

席上、浜田会長から胃切除という病氣を克服し、健康長寿に努めている高齢者十一名（最高八十七歳）の

会員に、長寿を祝福し、さらに長い人生を健康で末長

んでしている人はおりません。町民憲章にも「相手の身になり親切をつくしまし

よう」とうたわれております。個人では生きられぬのが現代社会です。やはり、健康に優る幸せはありません。

（松程・白川千代雄）

来年度の国保税が三割アップと聞いております時、来年は自治、善行、健康の三部門別に良い人を選び、良い町づくりにと一筆申し述べます。

く暮らしてくださいよう、一人一人に表彰状が贈られました。

む胃会は、長年胃腸病で苦しめ、また胃集団検診などで胃切除を宣告され、手術をした人で組織している会です。今一九〇名の会員も発足当初は三〇名弱の会員でした。

毎年一四〇〜一五〇名の会員が、町立病院で検診を

受け、みんな元氣な姿で、年一回の総会でお互い手術という苦しみ乗り越えた者同士が語り合っております。

来年中には、おそらく二〇〇名を超える会員数になると思います。

我々はこれからも毎年検診を受けながら、早期発見、早期治療に努め、丈夫な体をつくり、胃なし人間がお互い励まし合い、健康を保持しながら各方面で活躍されるよう期待したいものです。

（朝日町む胃会）



む胃会員で健康、長寿に努められているかたを表彰

春日沼にコイ、

ヘラブナ放す

最上川第一漁業協同組合では、このほど三中の春日沼にコイ四百匹とヘラブナ二千匹を放流しました。

漁業協同組合では、釣りマニアに大いに楽しんでもらおうと昭和五十九年一月に、春日沼の漁業権を取得。以来コイやヘラブナなどを時折放流してきました。

ことし、NHK教育テレビ釣り専科の金子四郎氏を招き春日沼を見てもらったところ「ヘラブナ釣りにはもってこいの沼」と折紙をつければ、漁協では地元との協力を得ながら、コイやヘラブナ釣りの一大メッカにしようと思気込んでいます。



コイやヘラブナを放す漁協組合員

古道を
たずぬて ②〇

峯は白銀下ればかえで、
ぶなももえたつ朝日岳。
里は眉ひく姉さんかぶ
り、赤いりんごが目にし
みる。ホンニヨイトコ五
百川郷は、みんな働く平
和郷。

(西五百川音頭の二節から)

立木街道は夏草、立木間
約五隣の街道であった。

夏草は古くから西部地区
の中心集落であった。旧道
は西小裏一坂の上―新崩―
太郎へとつづいた。坂の上
から右は布山虚空蔵、左は
水口十一面観音堂への古道



古道に道陸神は静かに立つ

立木街道

夏草Ⅱ立木

岡ふまよばあさん(八三歳)
は語る。

「工場は五人ほどの人が
共同経営であった。かすりの
着物に赤いたすき姿の女
工は粋なものであった。坂
の上に根まわり約三・五畝
ほどの一本松があったが、
一昨年の大雪のため惜しく
も倒れてしまった」。

道はさらに太郎―大里神
―猫石―石田測とつづい
た。猫石は太郎喜之助物語

で有名である。寛文の昔会
津藩の剣客、滝川源之進が
怪猫三匹を退治したのであ
る。三匹の怪猫は殺されて
三つの大石に化したと伝説
は語る。

高齢者センターの長岡王
治氏に案内を願って道陸神
を参詣した。県道から左手
に急坂を登る。頂上三二〇
の地点に道陸神が祭られ
ている。この神は道祖神、
塞の神、道の神または船玉
の神などともいわれている。

そのルーツは
なかなか興味が深い。一つは中国の
道教に源流を発す
る三戸の虫の説、
次は神教と結びつ
いた猿田彦説、次
は仏教から来た青
面金剛を御本尊と
する三説である。

この御堂は方三〇
畝高さ八五畝の万
年堂である。御神
体は長さ一九畝の
男根である。創建
は大分古いと見ら
れるが不明。

別当は石田測の長岡武雄氏
と分家の庄七氏であり祭礼
は七月二十日である。民間
信仰としては性の神、生産
の神、耳病の神とされてい
る。

古道はさらに化石―曲測
―立木へとつづく、帰途最
近ブームを呼んでいる太郎
のお大天様を探訪した。こ
の神は縁結びの神であって
参詣した人は必ず結ばれる
という。

(文/広報委員・長岡幸助)





60年11月1日～11月30日届出

*出生

区名 出生者氏名父名 続柄
大谷三 白田恭子 富彦 長女
大谷三 白田亮介 稔 長男

*死亡

小原 佐藤華南 安正 長女
下戸沢 大滝明日香 義雄 二女
沼向 佐藤慶子 直義 三女
大谷六 渡邊 太 和之 長男
常盤 阿部正継 誠治 長男
西町 鈴木祐美子 修 二女

区名 死亡者氏名年齢世帯主
新宿 熊谷うめ 67 小次郎
大町 鈴木 きぬ 64 伊平
西町 武田 さく 90 正
元町 阿部たま江 88 清作
大町 志藤 勝也 83 勝明

*結婚

高田 西川町 柴子
佐竹 剛 天童市
大谷三 花輪富士子
長岡 和之 中沢
大谷五 川村 敬一 五十嵐若子
大隅 菅井千代太 沼向
菅井真喜子 栗木沢
清野 則昭 遠藤久美子
四ノ沢 戸沢村
熊谷 利弘 八畝 和子
松程 東京都
鈴木 茂 岩本 治子
川通 白倉
志藤清市郎 阿部より子
前田沢 松程
鈴木 吉浩 佐竹砂栄子
長沼 常盤
阿部 弘美 佐竹 晴美
大谷六 寒河江市
志藤 正利 太田 直子



鈴木 幸子 さん
常盤 鈴木 幸子 さん



ちよつとの隣り村で東京からUターンの彼女。例ニクニで働く彼。双方の視線がチカチカとからまった瞬間、心が決まったといい、かわいい彼女との縁を大事にしての繁栄が目標と語る。

「星がきれい」「僕には君の顔しか見えないよ」

愛、夢、すべて二人のために。キヌリー夫妻がラジウムの分離に成功した偉大な日に結婚したおふたりさん。

見つめる夢を同じくして、おしあわせに——

(広報委員・鈴木かつ子)



社会福祉協議会へ
温かい善意

せせらぎ

▽師走も早中旬になった。今年の初雪は十一月十五日、昨年は十一月十三日だった。昨年より二日遅い初雪となった。暦の上で今日七日は大雪、二十二日は冬至である。

今年も余すところ十数日、巷にはジングルベルが鳴りひびき、大晦日の除夜の鐘とともに89年は永遠の彼方に消えてゆく——光陰矢の如し。

▽今冬の天候は天気博士のお託宣によると、十二月後半と一月上旬は雪の日が多く、一月中旬から二月上旬にかけて雪はわりあい少なく、気温もやや高目で、一般に暖冬の見込みだ、と。——当るも八掛、当らぬも八掛。

▽冬季に入っていちばん心配されるのは冬将軍の襲来である。この白魔は雪国の宿命であり、われわれの先祖から何百年という長い間この雪と戦って来たのである。要は克雪であり和雪であり利雪である。

——三人よれば文殊の知恵。

▽先月の新聞によると、朝日村で雪下ろしシアターを募集したところ、十五人の募集に六十人の応募があったとのこと。さあ朝日も負けてはおれん。観光スキーに、雪祭りに、ジギスカン鍋に、体験学習に、朝日独特の郷土料理に、自然食に——金のある者は金を。知恵のある者は知恵を。

(幸月)

環境美化の

標識を贈る

このほど、恵まれないかたのために、社会福祉協議会へ温かい善意が贈られました。

▽夏草の鈴木直二さん 三万円
▽連合婦人会 二万五千円

識看板が八基設置されました。そのうち三基(設置工事含む、七万二千元)をロータリークラブ(小国和夫会長)から寄贈を受けました。

また、五基分の設置工事については、大東建設から無償の御協力をいただきました。

心から感謝するとともに、私たちも空カンやたばこのポイ捨てをやめ、美しい環境づくりに努めていきたいものです。